

田中俊一監督は「子どもたちは、練習時間もあまり取れない中で努力し、ここまで成長してきた。心から「ありがとう」と言いたい。ナイスゲームだったと伝えたい」と選手たちの努力を称えた。

試合後、選手たちは涙したが、それは悔しさだけでなく、全てを出し切り満足した爽やかな涙に思えた。

キャプテンの川畑は涙を拭い「この悔しさを、次のウインターカップにぶつけたい」とつぶやいた。選手たちの気持ちはすでに次なる挑戦へと向かっていた。

目指したのはチームの未来 つないだのはキズナ れいめい高校女子バスケットボール部

学校近くの隈之城駅の清掃から、れいめい高校女子バスケットボール部の毎朝は始まる。

創部以来、初めての全国大会出場の間が、地元鹿児島開催ということで私たちは燃えていた。

キャプテンでチームを引っ張る徳田梨愛と姉の梨恋の双子姉妹、コートに立つ選手としては、中袴田実侑を加えた3人だけが3年生という下級生が主体のチーム。

2年生エース川路悠佳を中心に、高いディフェンス力と最後まで諦めない強い意志で全国大会の切符を初めて手にした。

キャプテンは、ひとしきり泣いた後、「自分は、チームメイトに怒ってばかりいた気がするけど、誰一人欠けることなくこの大会を迎えられたことは良かった。下級生主体のチームで、全国の壁はきつかったけど、勝てるチームだと思っているので、これからも頑張っていこう」と声を掛けてくれた。



このメンバーでやれるのも最後。初戦敗退とはなりましたが、初めての全国大会出場は大きな自信となった。

これからは私たちは、絆をつないで未来を目指したい。私はそんな思いで前を向いた。



全国大会を戦うのは、コートに立つメンバーだけではない。

サポートに徹する3年生の平原美星。

1年生の妹森月羽を支える3年生マネージャーの羽美。膝のけがでサポートメンバーとなっている2年生の2人。

コートに立たなくても全員でれいめい高校女子バスケットボール部だ。

全員の思いが交錯する中、私たちは当日を迎えた。相手は静岡の浜松開誠館。強敵と評判ではあるが、全員の思いを一つにし、あとは精一杯やるだけだ。

互いを高め合い 勇壮かつ華やかに舞う れいめい高校体操部

新体操個人演技、れいめい高校3年の田窪利久と森園颯大は小学校時代からお互いを高め合ってきたチームメイトだ。

会場の鹿児島アリーナ、初めに田窪の名前がコールされる。大きな歓声が上がった。演技はスティックとリングの2種類。

回転を取り入れながらスティックをキャッチすると同時に大きな歓声がある。続いてリングの演技。スピード感あふれる曲に合わせて、リングを自由自在に操る。

「初めてのインターハイ、緊張は特にしなかった」と普段通りの演技を心掛ける。しなやかな動きの中に力強さも感じるフットワーク。高く上げられたスティックに向かい田窪が高くジャンプする。



「失敗するような練習をしてきてはいない」その言葉が演技にも表れていた。1分30秒間の堂々たる演技。

「地元開催のインターハイに強い思いがあった。中学生の頃から目標として頑張ってきた」演技を終えると田窪はさすがしい表情を見せた。

続いて、今年度九州高校総体チャンピオンの森園が登場。すると再び会場は大声援で沸いた。スティック演技、開始前に集中するように大きく深呼吸する。会場は静寂に包まれる。

ジュニア時代九州・全国で常に上位の実績を持つ森園であるが、高校3年まで高校総体に出場することは叶わなかった。彼の頭の中には「優勝」の二文字しか浮かんでいなかった。

試合が始まってすぐ、私たちは相手チームに先制点を許してしまった。その後も、何とか初得点で勢いを手にしようとするも相手の高い攻撃力が私たちをしきりに襲う。持ち味の粘り強いディフェンスで挽回しようとするが、差を縮めるどころかジリジリと離されていく。攻撃している時間より、攻められている時間が長く、私たちの不安をおおる。心が折れそうになった瞬間もあった。

だが、支えてくれる家族、コーチ、サポートメンバーの声援のおかげで私たちは最後まで強くいられた。声が聞こえる度にみんなの思いを背負っていることを思い出し、最後まで毅然と戦うことができた。



結果は、54対94で完敗だった。私たちは、泣いた。声を出さずに泣いた。悔しさもあったが、もつとやれたはず。見に来てくれた方々にもう少し良いところを見せたかった。そんな思いが私たちを泣かせた。

松永真人コーチも喉を詰まらせ、最初は声を発せなかったが、それでも声を振り絞って「全国の舞台で活躍できたことはい経験となった。点差は離れていたかも知れないけど、最後まで応援も含めてプレイできて良かったと思ってる」と私たちをねぎらってくれた。

これまで積み上げてきた努力を最高のパフォーマンスに変えて、会場の声援に応えたい。地元開催そして初の総体出場に、森園の情熱は最高点に達した。曲が始まると柔らかな動きから高いジャンプを決める。自信のある演技。



次の演技リングでも、早いテンポで見るものを魅了する。